

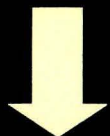
独立なボーズ凝縮体間の 干渉性について

- ▲ 相関の無い物の間に干渉性があるのか？
- ▲ 観測することで干渉が生じる？
- ▲ ボーズ凝縮体であることは
この現象の本質？

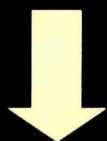


量子力学適用可能範囲の探究

- 量子力学は疑わしくないのか？



- 量子力学にのっとり
少なくともどこまで成り立っているか検証



- 怪しげな観測理論は量子力学？
- 巨視的量子現象？

慣例の観測理論

- X_1 に粒子を
観測する行為

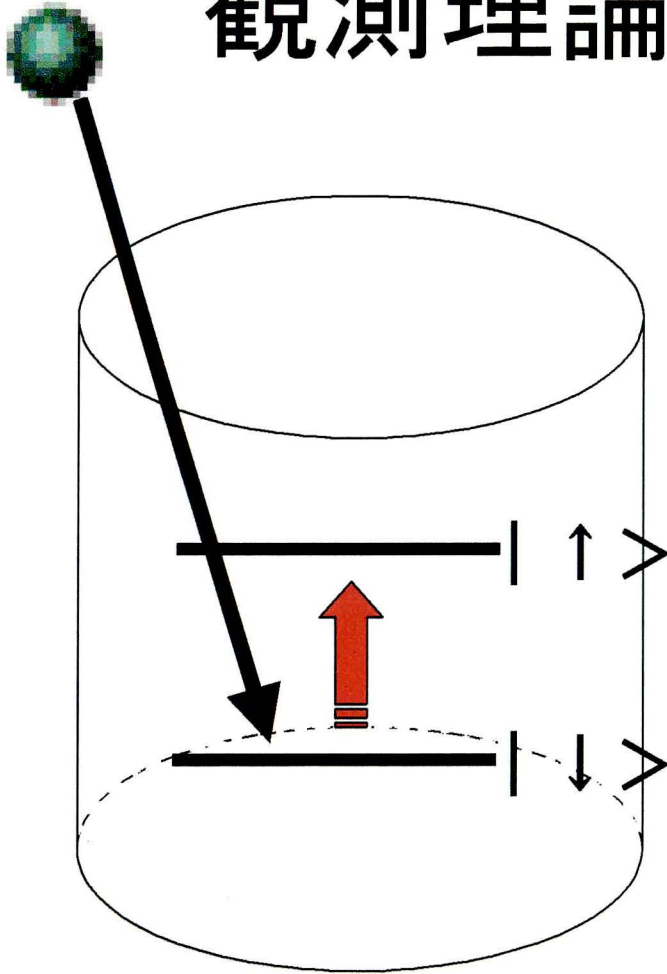
=

- $\psi(X_1)$ を
作用させること

しかし

量子力学では、状態の変化は
unitaryであるはず、、、

量子力学に従って 観測理論を定式化しよう



モデルは図のような
counterを仮定するだけ

● Counterはtwo state atom

● 原子を吸って

$|\downarrow\rangle$ から $|\uparrow\rangle$ へ flip

その相互作用は？

Counterと原子の相互作用Hamiltonianは

$$\mathcal{H}_I = g (\sigma_+ \psi(x) + \text{h.c.})$$

gは結合定数

$$\sigma_+ = | \uparrow \rangle \langle \downarrow |$$

- ・このようなcounterが測定領域を覆っている
- ・各counterのindex をj として全体としては

$$\mathcal{H}_I = g \sum_j (\sigma_{j+} \psi(x_j) + \text{h.c.})$$

観測中の時間発展

- 測定の時間発展はunitary演算子 $\mathcal{U}(t)$
$$\mathcal{U}(t) = \exp(-it(\mathcal{H}_0 + \mathcal{H}_I)/\hbar)$$

- 極めて短い間 Δt だけ測定
- その分測定能力 g を上げる

- ↓
- $\mathcal{U}(\Delta t) = \exp(-i\Delta t \mathcal{H}_I/\hbar)$

*Impulse
approximation*

$\mathcal{U}(\Delta t)$ を展開しよう

- $\mathcal{U}(\Delta t) = \exp \{ c \sum_j (\sigma_{j+} \psi(x_j) + \text{h.c.}) \}$



- これを c について展開する。

$$C := -i \Delta t g / \hbar$$

(さっきの仮定と折り合う程度に c は充分小さい)



- そして $\psi(x)$ と $\psi^\dagger(x)$ の多項式を
“ ψ の数 - ψ^\dagger の数”
という観点からまとめ直すと

- $$\mathcal{U}(\Delta t) = \sum_{n=0}^{\infty} (c^n/n!) \left(\underline{\text{“}\psi\text{の数} - \psi^\dagger\text{の数} = n\text{”の項}} \right) \\ + \left(\text{“}\psi\text{の数} \leq \psi^\dagger\text{の数”の項} \right)$$

$$= \sum_{jj' \dots j(n-1)} \sigma_{j+} \sigma_{j'+} \dots \sigma_{j(n-1)+} \psi(x_j) \psi(x_{j'}) \dots \psi(x_{j(n-1)}) \\ + c^2\text{の項} + c^4\text{の項} + \dots$$

今まで略記してきた h.c. を明示すると

$$\mathcal{U}(t_0 + \Delta t, t_0) \doteq \exp(-i \Delta t H_i / \hbar)$$

$$= \exp \left\{ c \sum_j \left(\sigma_{j+} \psi(x_j) + \sigma_{j-} \psi(x_j)^\dagger \right) \right\}$$

$$= \sum_{s=1}^{\infty} \frac{1}{s!} c^s \left(\sum_j \left(\sigma_{j+} \psi(x_j) + h.c. \right) \right)^s$$

これをばらして次のようにまとめ直す。

$$u(t_0 + \Delta t; t_0) = 1$$

$$+ \underbrace{\left(c^1 \sum_j \sigma_{j+} \psi(x_j) + c^3 \left(\psi^\dagger \psi \psi \text{ や } \psi \psi^\dagger \psi \text{ を含む項} \right) \right.}_{\psi \text{ の数} - \psi^\dagger \text{ の数} = 1 \text{ の項}} \\ \left. + c^5 \left(\psi^\dagger \psi \psi^\dagger \psi \psi \text{ や } \psi \psi \psi^\dagger \psi^\dagger \psi \text{ などを含む項} \right) + c^7 \dots \right)$$

$$+ \underbrace{\left(\frac{1}{2!} c^2 \sum_{j, j'} \sigma_{j+} \sigma_{j'+} \psi(x_j) \psi(x_{j'}) \right.}_{\psi \text{ の数} - \psi^\dagger \text{ の数} = 2 \text{ の項}} \\ \left. + c^4 \left(\psi^\dagger \psi^\dagger \psi \psi \text{ や } \psi \psi^\dagger \psi^\dagger \psi \text{ などを含む項} \right) + c^6 \dots \right) \dots\dots\dots$$

+

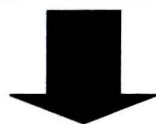
$$+ \underbrace{\left(\frac{1}{n!} c^n \sum_{j, j' \dots j^{(n-1)}} \sigma_{j+} \sigma_{j'+} \dots \sigma_{j^{(n-1)+}} \psi(x_j) \psi(x_{j'}) \dots \psi(x_{j^{(n-1)}}) \right.}_{\psi \text{ の数} - \psi^\dagger \text{ の数} = n \text{ の項}} \\ \left. + c^{n+2} \text{ の項} + c^{n+4} \text{ の項} + \dots \right)$$

+

結局どう結論できたか

Cは充分小さいので各nにおいて c^2 を無視すると

(“ ψ の数 - ψ^\dagger の数 = n” の項) は



$$\sum_{j, j', \dots, j^{(n-1)}} \sigma_{j+} \sigma_{j'+} \cdots \sigma_{j^{(n-1)+}} + \underbrace{\psi(x_j) \psi(x_{j'}) \cdots \psi(x_{j^{(n-1)}})}_{\text{となる。}}$$

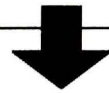
$x_j, x_{j'}, \dots, x_{j^{(n-1)}}$ 点の
counterが
観測すること

=

$\psi(x_j) \psi(x_{j'}) \cdots \psi(x_{j^{(n-1)}})$
を作用させること

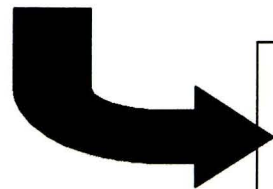
各 n (観測した点の数)に対して
 c^2 以上の項を無視している。

異なる n のものを同じ枠組で扱えば
矛盾が。



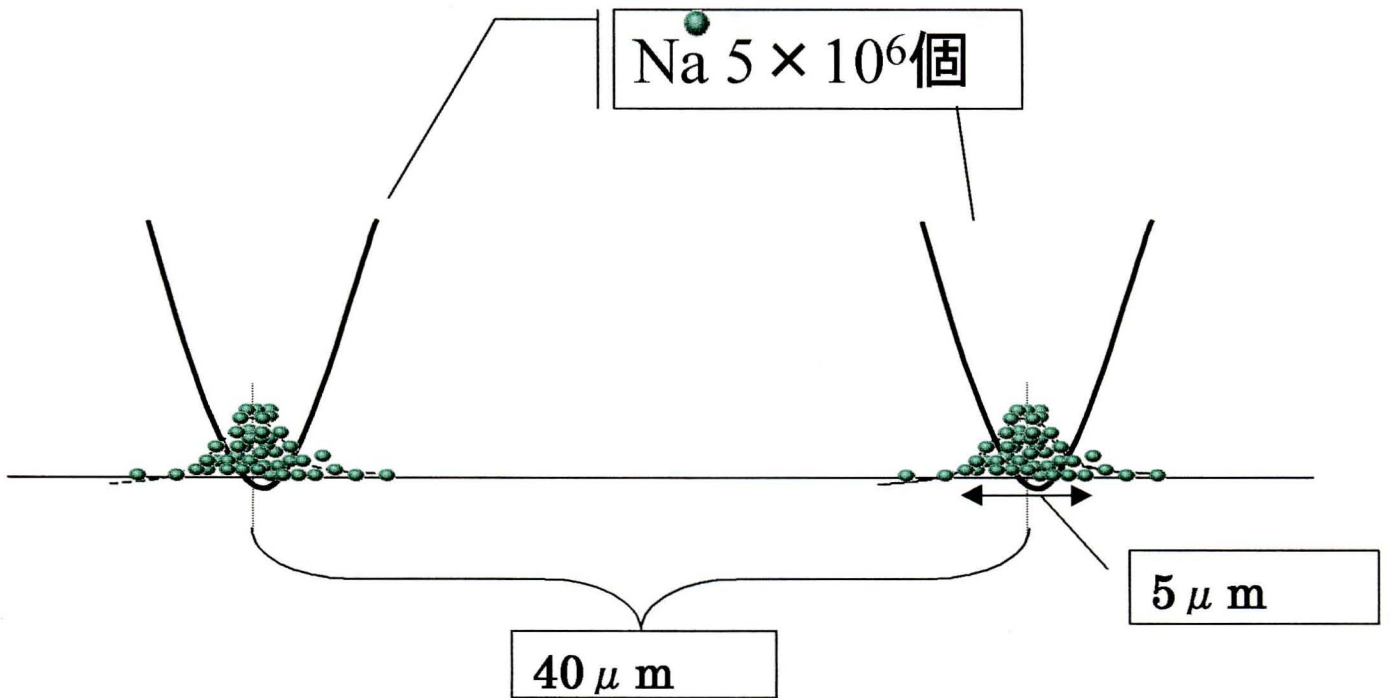
counterの検出した粒子の数が
 n であるという事象の集合内で
確率を議論するモデル

n-counter model



『観測行為は $\psi(x)$ を作用させること』
と定式化できた

実験のあらまし1



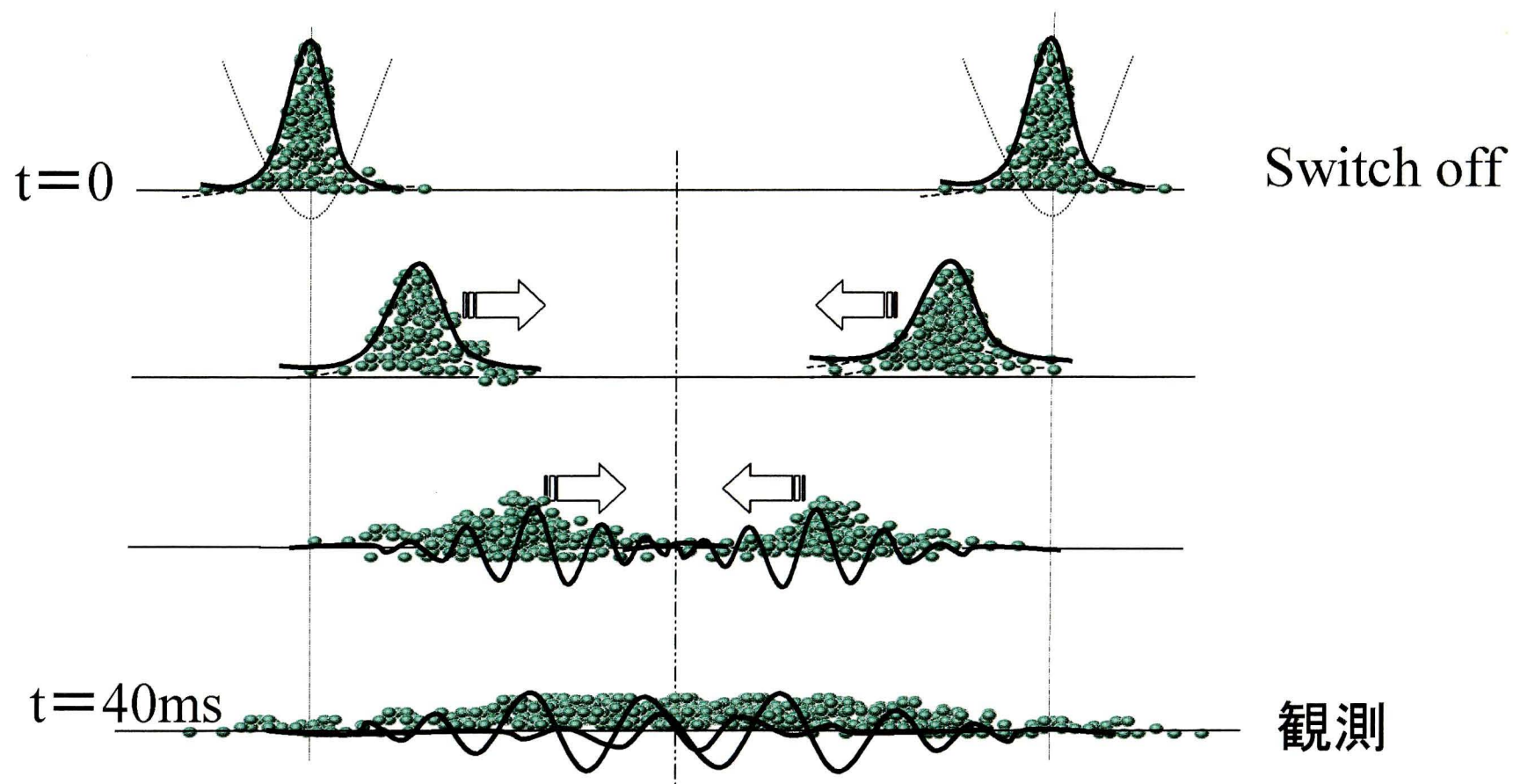
磁気と光でボーズ凝縮体をトラップ

Overlapは@@@@@@@@@@@



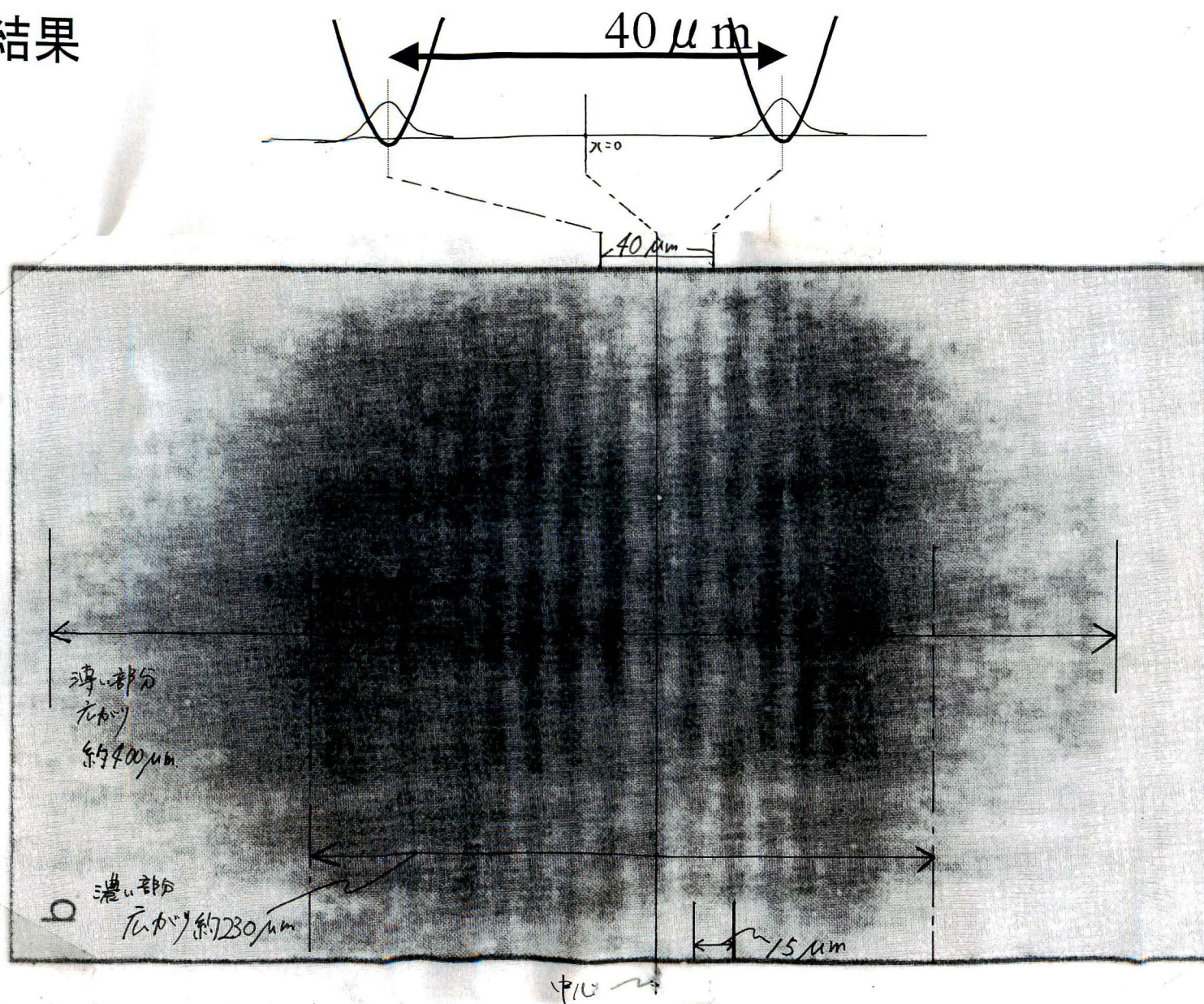
量子的相関は無い

実験のあらまし2



下方へ落下しつつ、互いに他方の中に入り込む
 $t=40\text{ミリ秒}$ に光を当てて観測。

実験結果



M.R.Andrews, et al. ; SCIENCE 275(1997)637 より転載

実験のモデル化

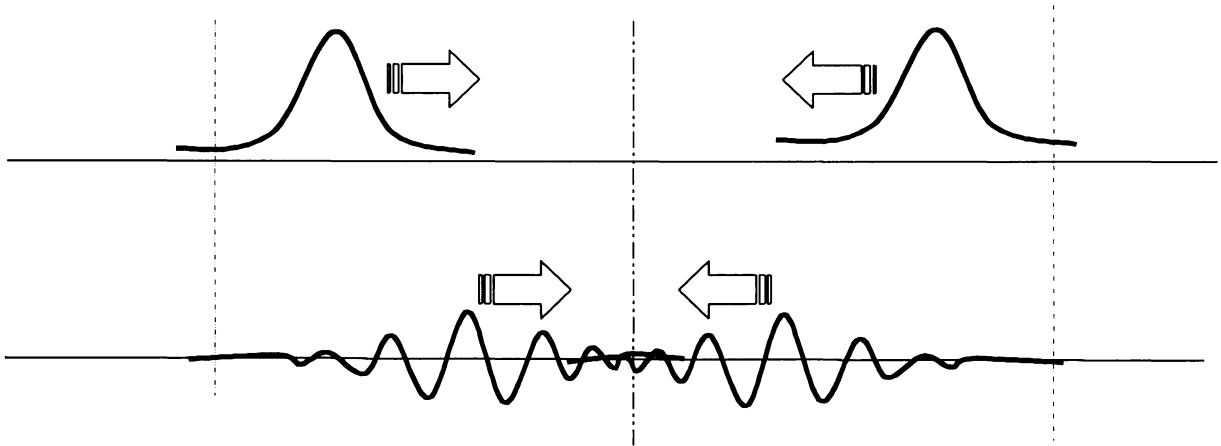


磁気と光でボーズ凝縮体をトラップ



各々調和振動子型potentialでモデル化
Na原子はその基底状態 (Gaussian) へ
ボーズ凝縮していたものとする

Trapを切った後、
広がりとoverlapして行くボーズ凝縮体



1. 切る前、Gaussianであったこと
2. ボーズ凝縮体の進む速さは $\hbar k/m$ の2点を考慮して



初期状態を $\text{Gaussian} \times \exp(\pm ikx)$ とモデル化

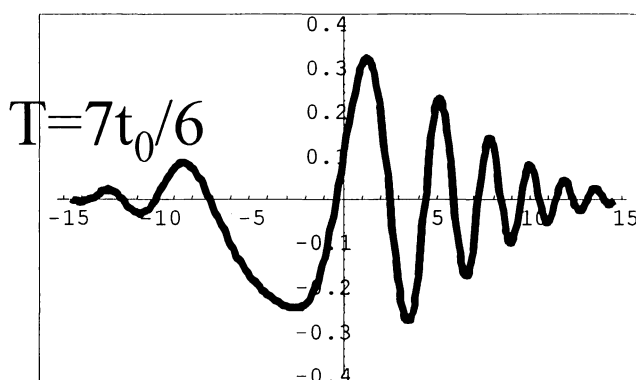
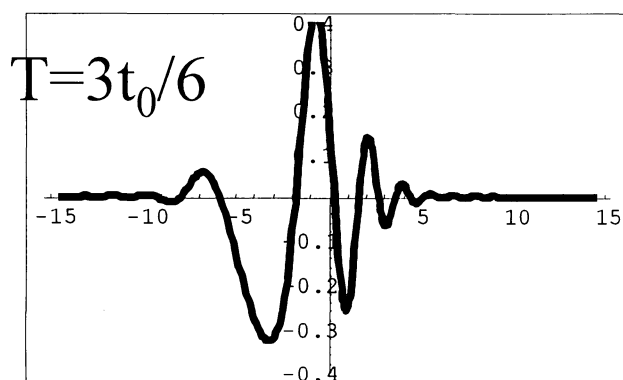
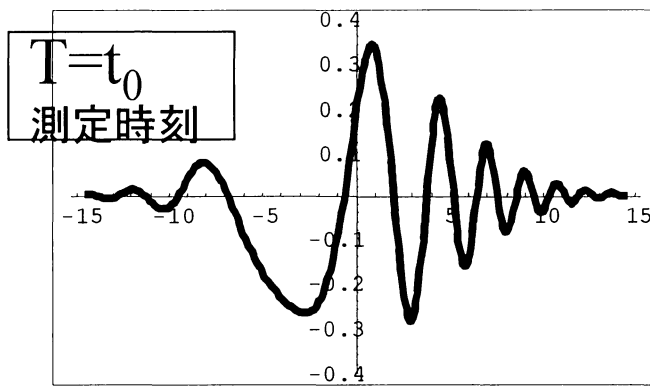
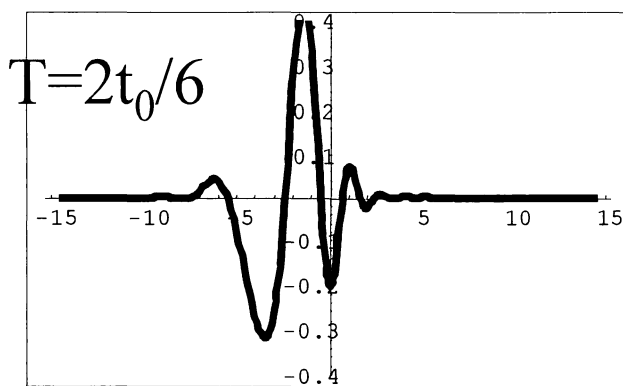
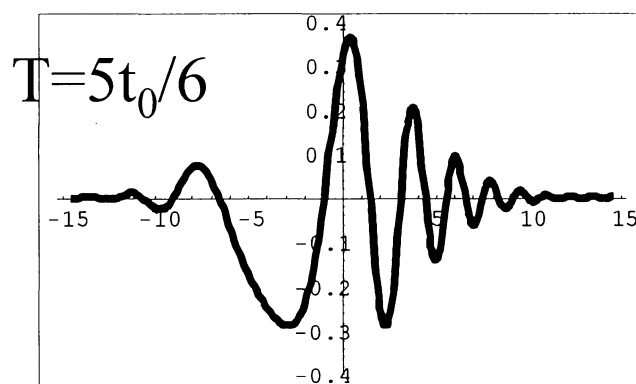
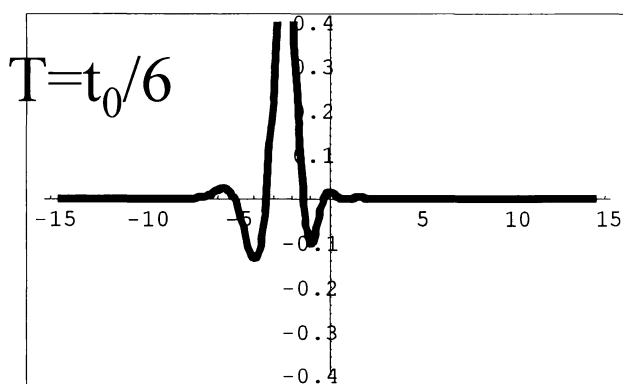
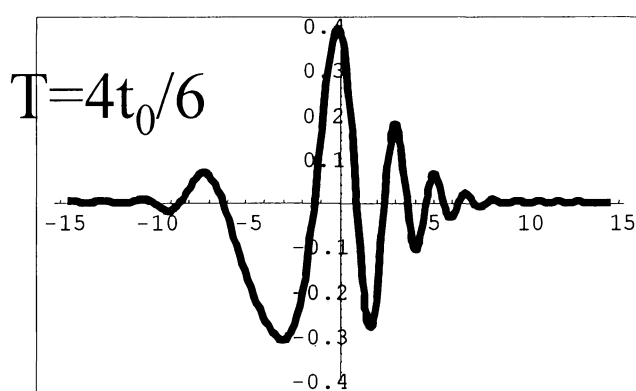
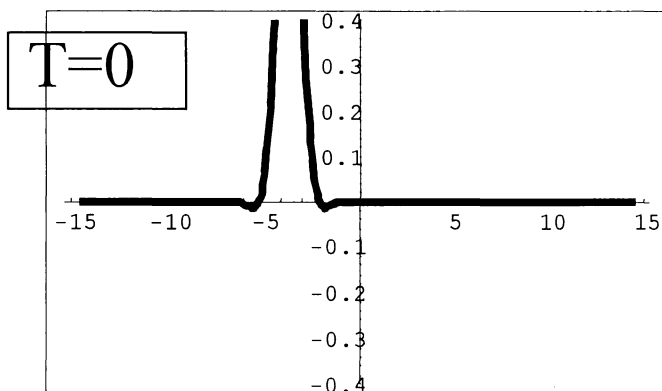
以降は測定時刻 t_0 まで \mathcal{H}_0 で時間発展



具体的には、各Na原子が
1粒子系の自由空間で時間発展したもの
(広がりと平均速度 $\hbar k/m$ で進む波束)

波束で表現した ボーズ凝縮体の時間変化(L側分)

実成分のみ

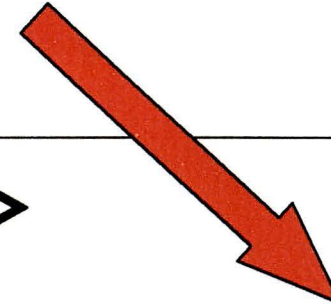


1-counter model $\sim x_1$ で観測

Lから来たBECの数

Rから来たBECの数

$$\Psi(x_1) \rightarrow |N/2, N/2\rangle$$



$$(N/2)^{1/2} \phi_L(x_1) |N/2-1, N/2\rangle$$

$$+ (N/2)^{1/2} \phi_R(x_1) |N/2, N/2-1\rangle$$

x_1 に見出す確率

$$P_1 = |\phi_L(x_1)|^2 + |\phi_R(x_1)|^2$$

干渉は
無い

2-counter model $\sim x_1, x_2$ で観測

$$\Psi(x_1) \rightarrow |N/2, N/2\rangle$$

$$(N/2)^{1/2} \phi_L(x_1) |N/2-1, N/2\rangle + (N/2)^{1/2} \phi_R(x_1) |N/2, N/2-1\rangle$$

$$\phi_L(x_1) \phi_L(x_2) \\ |N/2-2, N/2\rangle$$

干渉

$$\phi_R(x_1) \phi_R(x_2) \\ |N/2, N/2-2\rangle$$

$$\{ \phi_L(x_1) \phi_R(x_2) + \phi_R(x_1) \phi_L(x_2) \} \\ |N/2-1, N/2-1\rangle$$

干渉が
生じた

x_1, x_2 に見出す確率

$$P_{12} = | \phi_L(x_1) \phi_R(x_2) + \phi_R(x_1) \phi_L(x_2) |^2 \\ + | \phi_L(x_1) \phi_L(x_2) |^2 + | \phi_R(x_1) \phi_R(x_2) |^2$$

$N=2$, 2-counter model

